

広報みしま

7月1日号

- 2 特集“育^{いく}まち みしま”
- 8 保健カレンダー
- 9 健康づくり/スポーツ
- 10 スポーツ教室
- 11 夏まつりの参加者募集
- 12 介護保険料と各種軽減制度
- 13 国民健康保険税の軽減基準額の変更
- 14 後期高齢者医療被保険者証 / 国民年金・学生納付特例の申請 / 「協働のまちづくり活動」の提案
- 17 暮らしの情報
- 20 M-ステテ大賞
- 21 情報ワイド版
- 22 みんなの伝言板
- 23 生涯学習
- 24 図書館 / 文化のひろば
- 25 楽寿園
- 26 フォトマイタウン
- 28 夏休み子どもイベント
- 31 歴史の小箱 / ふるさと探訪
- 32 市民カレンダーの公募について / わたしのおじいちゃん

育^{いく}まち みしま

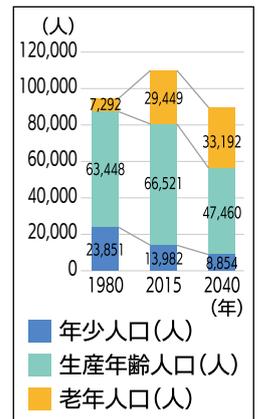


今回の表紙

6月14日(火)に撮影した市立松本幼稚園の様子です。水浴びをしながら園庭を走り回る園児たちの姿に、梅雨の憂うつな気持ちが吹き飛ばされました。



子どもが少なくなった。そう感じることはありませんか。市の人口を※年少、生産年齢、老年の3区分でみたとき、昭和55年(1980年)に23,851人だった年少人口が、平成27年(2015年)には13,982人と減少しています。今の子どもたちが親世代となる平成52年(2040年)には8,854人になると予想されます。原因は結婚・出産・子育てに対する意識の変化だけではありません。子育てを取り巻く社会環境の複雑な課題が絡み合っていることから、社会全体として取り組む必要があります。



※年少人口…14歳以下、生産人口15～64歳、老年人口…65歳以上
出典：住むなら三島・総合戦略より



「子どもは家庭が育てるのでしょうか。それとも地域や社会が育てるのでしょうか。」

きっと、どちらかだけで育てるものではありません。



問合せ 子育て支援課 (☎ 983 - 2712)

社会にとって、子どもは大切な宝であり、その健やかな成長を、誰もが願っています。しかし、就業形態の多様化や核家族化など、家庭を取り巻く環境の変化は著しく、子育てに不安を感じる人も少なくありません。

育児不安について相談できる人、頼れる人が近くにいないといった内容を含め、市の家庭児童相談件数は、1,558件（平成21年度）から1,977件（平成25年度）に増加しており、誰もが安心と喜びをもって子育てができるよう、支援が求められています。

子どもは、家庭だけでなく、友達との関わり、学校や地域、社会などでふれあう中で育ちます。それぞれの場所で、心身ともに健やかに育つ環境が必要とされています。

今回の特集では、自治会、地域の産婦人科、商店街など、それぞれの立場から子育て支援をしている人にお話を聞きました。